

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
ロジスティクス論				篠原 正人	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>産業界でますます重要視されている「ロジスティクス」について基本を学ぶ。 ロジスティクスは物流論やサプライチェーン・マネジメント論とも称され、輸送・保管およびそれに関する情報の管理を対象とする経営事項である。 従来企業は、研究開発・調達・生産・販売というモノづくり部門と、それを支える企画・総務・経理・財務・人事・広報・調査などの管理部門で成り立っていたが、モノと情報の流れを全社的に取り扱うロジスティクス部門が設置され、重要な役割を果たすようになった。授業ではこれを基礎から学び、習得した考え方を社会に出た後から適用できるよう企図する。 ロジスティクス論は比較的新しい分野であるから、これを学ぶことによって将来の企業経営に大きく貢献するとともに、行政においても政策立案に大いに役立つ。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>陸海空の輸送、保管について大まかな知識が習得できる。 ロジスティクスの考え方が理解できる。 社会で起きている諸事項をロジスティクスの観点から説明でき、課題を指摘できる。 人前で自分が考察した結果を適切に発表できる。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	ロジスティクスとは何か				
第 2 回	身近かなロジスティクスの事例				
第 3 回	国際貿易と海上輸送				
第 4 回	ロジスティクスとサプライチェーン				
第 5 回	ロジスティクスと物流				
第 6 回	物流の構成要素				
第 7 回	ロジスティクス・マネジメント				
第 8 回	これからのロジスティクス				
第 9 回	グローバルロジスティクスと貿易				
第 10 回	世界のロジスティクス				
第 11 回	港湾の役割				
第 12 回	港湾を取り巻く行政とビジネス				
第 13 回	事例研究 (1)				
第 14 回	事例研究 (2)				
第 15 回	授業のまとめ				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>ロジスティクスの考え方に慣れるため、新聞・ビジネス雑誌を毎日読むこと。 いくつか課題研究を課すので、レポートの書き方に習熟しておくこと。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	
授業への貢献度 (50%) 課題 (50%) を基本とする。 10回以上出席を単位付与の条件とする。	秀：学んだ専門用語を駆使して、論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点の解決方法を指摘できている 優：キーワードを用いながら論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点を理解している 良：おおよその説明はできており、かつ、問題点を理解している 可：ロジスティクスの仕組みや問題点の説明において、最低限の水準を満たしている 不可：ロジスティクスの仕組みや問題点が説明できていない
テキスト (Textbook)	【書名】 改訂版「ロジスティクスの基礎知識」 【著者】 浜崎章洋 【出版社】 海事プレス社 【出版年】 2015年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	月刊誌「LOGI/BIZ」、週刊「日経ビジネス」、日本経済新聞 「サプライチェーン・マネジメント論」中野幹久著、中央経済社 「マリタイム・エコノミクス」上・下 M. ストップフォード著、日本海運集会所
備考 (Other Information)	授業では積極的な発表・討論を奨励する。 課題レポートを提出しなかった者は単位付与付加とする。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	shinohara-masato@fukuchiyama.ac.jp